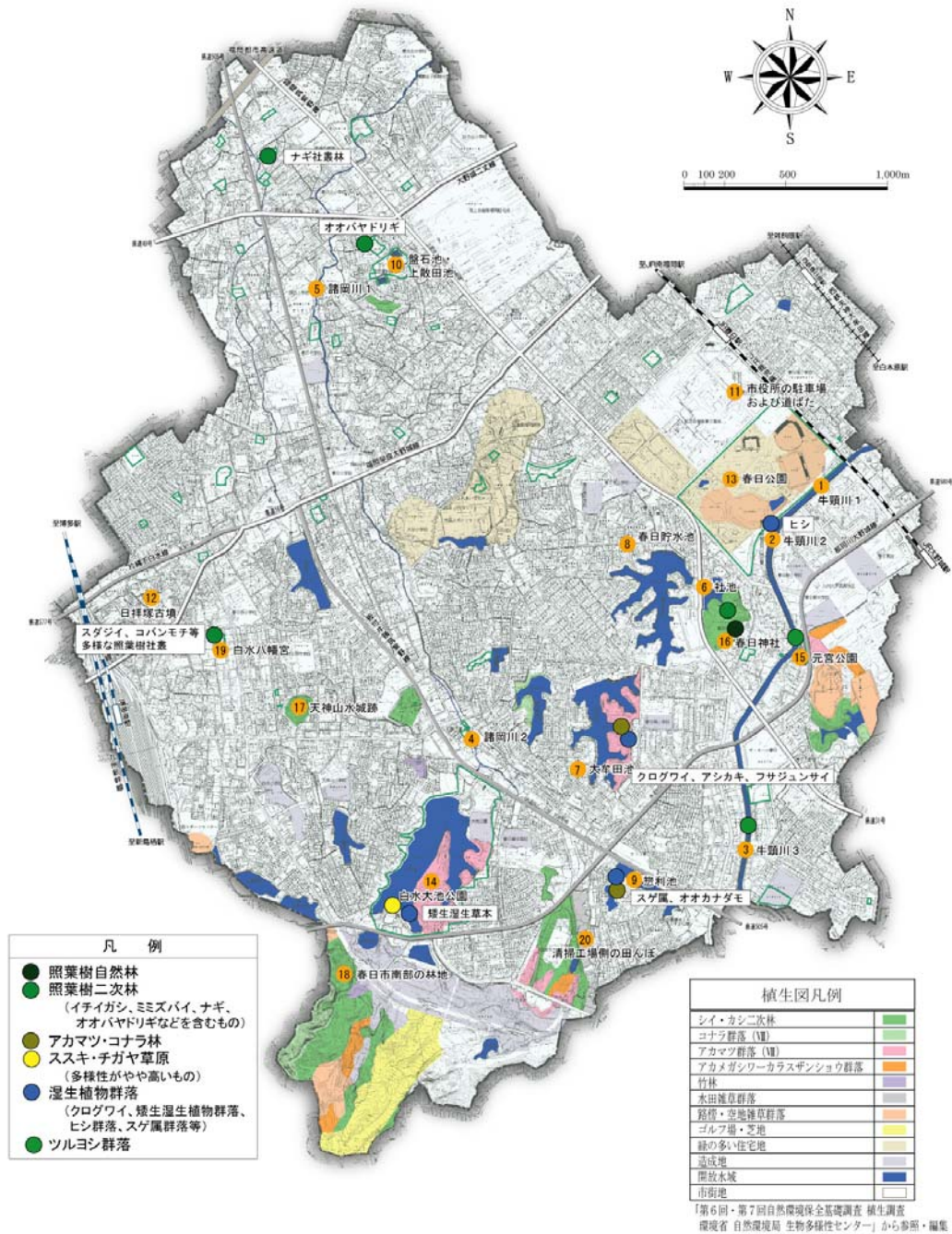


2. 植物群落

春日市の環境タイプの把握を行うため、現地調査で確認された群落の相観をとりまとめた。

市内の森林群落は単純化が著しく、多くは伐採、皆伐、焼失等によって、マツ林として再生したものとみられる。一部に潜在植生の組成の断片をとどめているものがあり、こうした照葉樹林では、ミミズバイ、イチイガシ、カゴノキ、シロバイなどがみられる。

湿生草本群落は、溜池では、ヨシ、ヒシなどが生育する面積は著しく少なく、溜池の多くは水質が良好で栄養に乏しく、透明度が高いため、沈水植物群落が発達し、一部水位変動のある溜池汀線に出現する矮生湿生草本群落がみられる。



■ 図2 特徴的な群落の分布 (概略)

















■表8 春日市の主な環境タイプの要約と保全上の留意事項（その1）

区分	環境の現況	留意すべき生物の 生息環境タイプ	重要資源と保全の方向性
森林 (自然林、二次林)	森林は春日神社、南部山林や、白水池、大牟田池、惣利池などに存在する。多くは断片的であり、質的な面においても二次的で、組成は単純化されているものが多い。	<ul style="list-style-type: none"> ●森林、疎林、樹園地 ・照葉樹準自然林 ・照葉樹二次林、二次的な社叢林 ・アカマツ群落、コナラ群落 ・疎林、マント群落 ・ヒノキ植林、竹林 ・樹園地、公園植栽 	<ul style="list-style-type: none"> ・準自然林の厳重な保護（保護） （アナグマの生息環境） ・大径木の保存（保護） （アオバズクの渡来環境） ・社叢林の適正な管理と次世代となる稚樹の育成（保全） ・その他、春日市保存樹木（保護）
水田	春日市の水田は、急激に縮小し、昭和40年には民有地の35%であった水田が、昭和50年には17%、平成11年には4%となっている。現在の水田は、南部清掃工場周辺や、住宅地の間に小規模が残されるのみである。こうした背景もあってか、春日公園には「田んぼビオトープ」が旧菖蒲園に造られ、懐かしい景観が再現されている。	<ul style="list-style-type: none"> ●水田 ・水田雑草群落（耕作地・休耕地） 	<ul style="list-style-type: none"> ・アカネ類、カエル類など親しみ深い種の安定した発生（保全・回復） ・ビオトープとしては従来の水田構造、素掘り水路、土の畦、水路との連続性、冬の湿田などの生息環境の回復。
河川	春日市の河川には御笠川支流の牛頸川、諸岡川、那珂川支流の川久保川があるが、その中でも牛頸川は自然的な中流河川となっている。河川の水量も比較的豊かで、ツルヨシ群落等がみられ、ハグロトンボ、オイカワ等の小動物がみられる。他は小河川や水路の様相となっており、自然的な要素は限定的であるが、諸岡川では白水大池公園下流付近に毛勝親水公園が整備されるなど、親水護岸工が施され、カワニナ、シジミ類がみられる区間もある。	<ul style="list-style-type: none"> ●河川 ・河川中流 ・河川下流 	<ul style="list-style-type: none"> ・出水時の魚類の退避場所、カワムツ等が好むやや深い淵や落ち込みの創出等の環境修正（回復） ・カワセミの生息環境としての修正（繁殖地、餌場としての止まり場所と淵） ・ふれあいの場としての利用

■表9 春日市の主な環境タイプの要約と保全上の留意事項（その2）

区分	環境の現況	留意すべき生物の 生息環境タイプ	重要資源と保全の方向性
溜池	<p>春日市の自然環境を代表する溜池については、かつては100箇所以上がみられたというが、現在では20箇所が残るのみで、これらの溜池は全国的にも珍しい「溜池保全条例」（昭和60年6月）で守られている。市民が溜池周辺の環境の恩恵を享受できる箇所は少なく、白水池など、公園化された一部の溜池の他は、住宅地周辺の緑地景観としての地位を占めている。多くの溜池の水源は牛頸川で、水路でつながっている。</p>	<p>●溜池、湿地</p> <ul style="list-style-type: none"> ・溜池（水質良好） ・溜池（水質やや低） <p>┌</p> <ul style="list-style-type: none"> ・抽水植物群落 ・沈水・浮葉植物群落 ・矮生湿生草本群落等 	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺緑地を含めて、市内の自然環境の中核地となっており、現存する環境の保存、生息地として不足する環境要素の補填で、自然とのふれあいの場の質を飛躍的に向上させる。 ・不足する環境としては、浅場・抽水植物群落、トンボ、カエル類の繁殖地などがある。
その他 (草地等)	<p>草地は少ない上、過度の管理がなされているため、多様性の高い草地は少ない。また、緑の多い住宅地、公園等は、人工的な自然であるが、鳥類等の生息環境、昆虫類の蜜源の提供等に一定の役割を担うほか、子どもの育成環境として少なからず影響を与える。近年の再開発により、緑地が減少し、高層化による景観の都市化、コンクリート化、閉塞化などがみられる地区もあり、一定の留意が必要とみられる。</p>	<p>●草地</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イネ科二次草原（ススキ群集） ・多年生雑草群落（路傍雑草、シバ草地、踏跡群落） ・一年生荒地雑草群落 <p>●その他 （緑の多い住宅地等）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自然的な草地の再生（傾斜などにも留意）。 ・小さな緑地や地域の自然に調和した公園等による、子どもの育成環境の整備が必要。

■表 10 主な環境タイプの相観

区分	環境写真（環境名）	主な環境要素	
森 林	 自然林（準自然林）	 多様な照葉樹種	 アナグマ（古い巣穴）
	 二次林（シイ・カシ林）	 アカマツ林・コナラ林	 公園樹園地
水 田	 水田	 素掘り水路	 休耕田と多様な水田雑草
河 川	 河川（写真は牛頸川中流）	 岸と底の自然性	 流込の溜り、浮石構造、大岩等
溜 池	 大傘田池の入江	 矮生湿生草本群落	 浅場、抽水植物群落
その他 （草地等）	 チガヤ・ススキ草地	<ul style="list-style-type: none"> 刈り取りによって維持される比較的多様な草地。多様性が残るのは白水池の小面積など（サイヨウシャジン、メガルカヤ、クロヒバリモドキ、ショウリョウバッタモドキ） その他、緑の多い住宅地等も、鳥類の利用、昆虫類の蜜源等の役割を果たす。 	